

	課題分析	授業改善策
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視写が苦手な児童が多い。黒板に書かれたことを写すのにも時間がかかる。</li> <li>・ひらがなや数字の書き順や書き取りが定着していない。</li> <li>・10までのたし算、ひき算の暗算が不十分。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モジュールの時間等に視写をする時間を定期的にとる。</li> <li>・モジュールや書写の時間、家庭学習を利用して、書き順に気を付けて丁寧に書く習慣をつける。</li> <li>・授業の最初の時間等に、計算カードやプリントを活用して習熟を図る。</li> </ul>
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作文を書く際、原稿用紙の使い方を十分に身に付けていない児童が多い。</li> <li>・カタカナの習熟が今一步の児童が多い。</li> <li>・数字や記号の書き方が雑になる児童が見られる。</li> <li>・単位の書き方（マスの使い方、高さ）に誤りのある児童が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書く活動の単元では、なるべく原稿用紙を用いるようにする。</li> <li>・朝のモジュール学習で練習し、習熟を図っていく。</li> <li>・ノートのチェックをし、指導を徹底していく。</li> <li>・授業の中で確認していくとともに、宿題などで習熟を図っていく。</li> </ul>
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読んだことや調べたことをもとに、自分の考えを文章に表すことに苦手意識をもつ児童が多い。</li> <li>・算数科における基礎的・基本的な内容の定着が充分でない児童が多い。</li> <li>・意欲的に運動に取り組む児童が多いが、領域によって意欲に偏りがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文の書き出しを提示し、書き出しへの苦手意識を軽減する。継続的に言語活動を取り入れていく。</li> <li>・個別に課題を出したり、学級全体で基礎的な問題を解く時間を授業内に設けたりして定着を図る。</li> <li>・どの領域においても、楽しさを味わわせられるよう、実態に応じた指導計画を立てていく。</li> </ul>
4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎学力（四則計算、漢字の習得）の個人差が大きい。</li> <li>・内容を正しく理解して読み取ることや、読み手を意識して伝わりやすい文章を書くことが苦手な児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別対応で指導したり、家庭への協力を促したりしながら、宿題等も利用して基礎学力の定着を図る。</li> <li>・100マス作文などを利用して、書くことに慣れるようにしていく。</li> <li>・読書活動や宿題の音読を通して、文章に慣れ、内容の理解を深められるようにしていく。</li> </ul>
5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えはあるものの、ノートに書いたり、発表したりすることに抵抗がある児童がいる。</li> <li>・漢字の習熟度に差があり、自信をもって書いている児童があまり多くない。</li> <li>・算数や理科においては、既習や経験を生かして自分の考えをもつことを苦手とする児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアやグループで考えを共有する時間を設け、やり取りの中で考えをまとめられるようにする。</li> <li>・モジュールの時間等を活用して様々な方法で漢字の定着を目指す。日々の宿題でも定着を図る。</li> <li>・学習課題を明確にし、以前の学習や経験につながるような段階的な発問をしていく。</li> </ul>
6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・思考力はあるものの、新しく習った言葉やその意味を覚えることを苦手とする児童が多い。</li> <li>・漢字を正しく覚えられない児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・算数や国語以外の教科でも、知識を定着させるために、習熟を図る時間をとりたい。</li> <li>・日々の漢字練習を丁寧にやるように声を掛ける。漢字を間違えた際は、何を間違えたのかを確認し、同じ間違いを繰り返さないようにさせる。</li> </ul>
専科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的・基本的な内容の定着に差が見られ、個人差が大きいことが課題である。</li> <li>・発想するのが苦手な児童が一部見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的に既習事項を確認する機会をもつとともに、休み時間や放課後に個別指導を行い、基礎的・基本的な内容の定着を図る。</li> <li>・発想の手がかりやヒントを示すなど、手立てになるような声掛けをする。</li> </ul>

